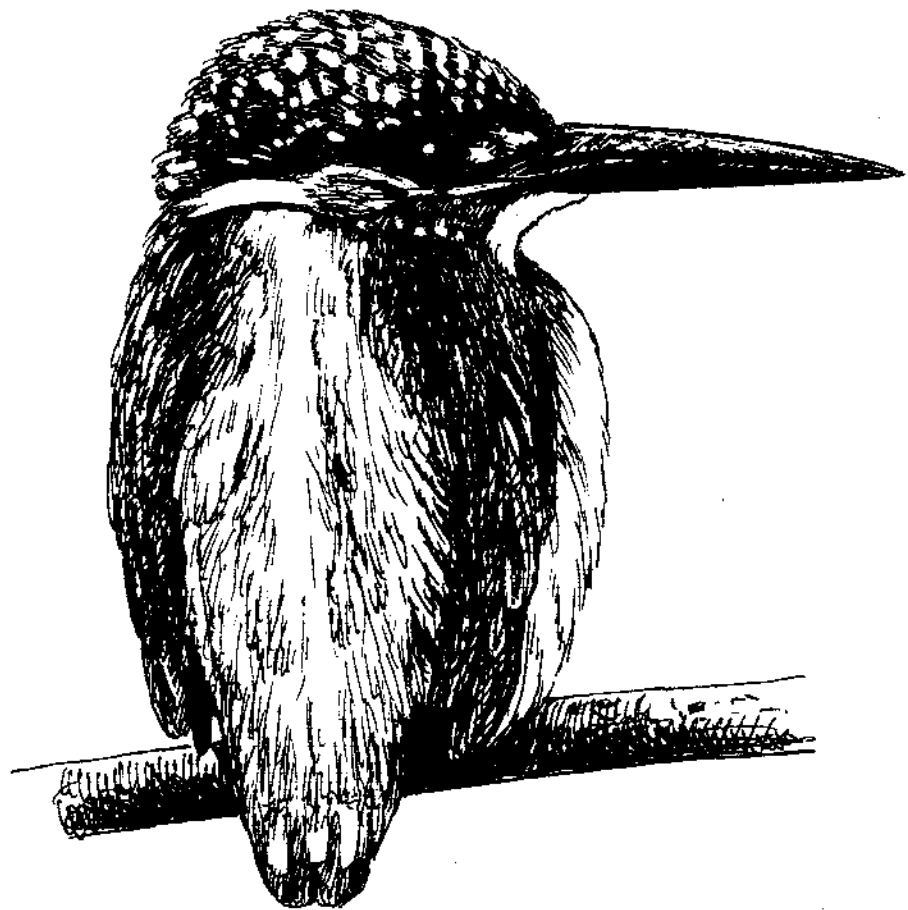


# いさご

第35号



2002年 5月

(財) 日本野鳥の会 三重県支部

● 大 台 ヶ 原 ● 谷 本 勢 津 雄

春、まだ山には木の芽が息吹く前にオオルリ、コルリ、コマドリ、カッコウといった夏鳥達がやってきます。冬の間少し低いところに居たシジュウカラ、ゴジュウカラ、コガラ、ルリビタキ、キバシリといった留鳥たちも頂近くに帰ってきます。あつという間に山は緑の絨毯に覆われますが植林と違って淡い緑から深い緑まで様々な緑が複雑な模様を描いています。いつもの場所でいつものように休憩を取り、お茶を沸かして周りをノンビリと見回すとお気に入りのブナの木が毎年変わらず雄大な姿で立っています。

周りからは鳥の囀りがシャワーのように聞こえてきます。沢山の鳥たちや動物、昆虫に至るまで豊富な生物が居ないと自然の営みは継続していけないことが周りを見渡すだけでよく分かるような気がします。

夏には鳥たちの声は少し静かになりますが、深い山の中や藪の中で鳥たちの子育てが続けられています。

秋、山の木々が赤く色づき次第に枯れ葉を落として林の中が良く見渡せるようになると夏鳥たちは帰り支度を始めます。

交代でツグミ、シロハラ、マヒワ、アトリといった冬鳥達がやってきます。

留鳥たちは群になり林を周りながら餌を探します。

冬、深い雪の中で鳥たちは留まる者もあれば低いところに行く者もいます。大きな猛禽類も餌が少なくなるので低いところまで探しに行くことが多いのです。

大台ヶ原にはまだ自然の残っているところがありますが、この自然をいつまでも残していくことが私たちの役目ではないかと思っています。

自然林は大きなダムです、海や川や人を守るためにもこれからは少しでも多くの自然林を育てる必要があるのではないかと思っています。

目 次

今月の表紙 絵：田中 豊成

- 巻頭エッセイ・今月の表紙・・・1
- 支部活動のページ・・・・・・2
- 会員のページ・・・・・・8
- 探鳥会報告・・・・・・11
- 編集後記・その他・・・・・・15

カワセミ  
今月の表紙

野鳥の会の皆さんにはおなじみの野鳥で、今さら説明もありません。

昔、私が子供の頃でした。私の畑に小さな崖があり、カワセミが巣を作っていました。一度だけ、カワセミの雛(数羽だったはずです)を持って帰って育てたことがありました。育て方も知らずに死なせてしまった苦い思い出があります。今思えば、とんでもないことをやっていたものです。そんな事を思い出しました。

田中 豊成 (名張市)

※「支部活動のページは、事務局で担当・作成しています。

## お知らせ

2002年度三重県支部総会が  
開催されました

さる4月21日（日）、午後1時30分より三重県生涯学習センター大研修室において、本年度三重県支部総会が37名の会員の参加をもって開催されました。

当日はあいにくの雨模様で足元の悪い中、ご出席いただきありがとうございました。

最初に杉浦支部長より昨今の若者のいわゆる「マニュアル化」（指示がないと行動できない）の傾向について、野鳥の会においても、野外教育活動を通して、問題の解決に貢献すべきではないか、というようなお話、続いて各部の2001年度の事業報告と会計の決算報告、2002年度の事業計画案と予算案の提示があり、それぞれ異議なく承認されました。

なお、予算については出席者より「広告メディアを使った入会案内などの広報やホームページの制作に予算をつけてはどうか」など、今後の参考となるご意見がありました。

各部の事業報告・計画案の概要は次のとおりです。



## ◇保護部（部長：谷本勢津雄）

## 2001年度事業報告

## 1、シロチドリ繁殖保護について

①豊津浦では柵を一行のみ立てた。看板を新調した。抱卵は数箇所、孵化は1ヶ所2羽のみ。

②吉崎海岸では看板を新調した。抱卵は見られたが、孵化は見られなかった。

## 2、シロチドリ全県繁殖調査について

志摩半島野生動物研究会と共同で行った。豊津浦での繁殖は急激に減少しているが、雲出古川、志摩広の浜など新しい繁殖地が見つかった。報告書は作成したが、公表する機会を逸している。

## 3、平成13年度野生生物緊急保護事業・地域で守りたい自然「五主海岸」動植物調査委託事業（三重県）

ライン及び定点調査、植生調査を行い報告書を県に提出。要約を「しろちどり」に掲載したい。

## 4、木曾岬干拓地問題について

01年4月27日 第二名神遮光板設置の要望書提出。

6月22日 県政策調整課に鳥類調査について申し入れた。9月まで待つて欲しいとの返答。

12月16日 長島町において、木曾岬フォーラムを開いた。

02年1月から愛知側と調査を始めた。チュウビ、ミサゴがかなりな個体数観察されている。

チュウビのねぐら取りが観察された。

## 5、安芸郡安濃町七郷池オオタカ問題について

2002年1月に堤防改修工事計画が明らかになった。県当局と接触し工事概要を入手し、保護部会で検討。

3月1日、申し入れを行った。工事後の現状復帰と営巣中心域に道路をつくらないこと。

## 2002年度事業計画

## 1、木曾岬干拓地問題について

①当面調査を続行する。

②昨年度に引き続き、木曾岬干拓シンポジウムを行う。

③木曾岬干拓地に関するパネル（野鳥の写真等）を作成し、環境フェア（6月1日四日市ドーム）や長良川河口フォーラム（7月）等で展示する。

## 2、シロチドリ保護

①豊津では柵1列、吉崎では許可を得て置く。できれば看板を新調したい。観察は地元で分担。

②昨年の報告書を公表する（志摩半島野生動物研究会と共同）。

## 3、安芸郡安濃町七郷池オオタカ問題

当面観察を続ける。6月に関係者と現地調査を行う。その後県と協議する。

◇研究部（部長：前澤昭彦）

2001年度事業報告

- 1、シギ・チドリ類調査（春期、秋期、冬期）
- 2、三重県の委託事業「平成13年度鳥獣保護区設定効果調査委託」、2002年3月に報告書を提出。  
白山町二本木鳥獣保護区91ha、尾鷲市佐波留鳥獣保護区7ha
- 3、三重県の委託事業「平成13年度ガン・カモ類一斉調査委託」、2002年1月25日報告。

2002年度事業計画

- 1、シギ・チドリ類調査（春期、秋期、冬期）  
朝明川河口、鈴鹿川河口～鈴鹿川派川河口、田中川河口～豊津浦海岸、志登茂川河口～安濃川河口、愛宕川～金剛川河口、櫛田川河口、外城田川河口。
- 2、三重県の委託事業  
「平成14年度鳥獣保護区設定効果調査委託」と「平成14年度ガン・カモ類一斉調査委託」は例年受託しているので14年度も受託の予定。
- 3、カラス類による他鳥類への繁殖圧にかかる調査  
理事レベルで予備調査をする。予備調査である程度仮設なり見通しが立てば平成15年度より調査したい。

◇企画部（部長：橋本祐子欠席による代理・塗矢博一）

2001年度事業報告

- 1、探鳥会を年間52回実施。（※内訳は紙面の都合で省略します。）
- 2、企画部担当行事
  - 4月22日 野鳥講座⑨「今森光彦の里山物語」上映。
  - 5月12日 6月3日 7月14日 津市中央公民館 バードウォッチング講座にリーダー派遣。
  - 10月2日 小俣中学校 総合的な学習への講師派遣。
  - 11月16日 度会郡第二教育振興会 研修会への講師派遣。
  - 11月25日 身近な自然を体験する県民デー「バードウォッチング&クリーン作戦イン高松海岸」高松海岸を守ろう会と共催で実施

2002年度事業計画

探鳥会年間57回計画（詳細は省略）提示。

◇編集部（部長：三村通雄欠席による代理・斎藤加代子）

2001年度事業報告

「しろちどり」発行4回

第31号 2001年 6月 特集：2001年度総会 第32号 2001年 8月 特集：三重の夏鳥  
第33号 2001年 10月 特集：各地域の鳥 第34号 2002年 2月 特集：我が家のバードウォッチング

2002年度事業計画

- 年間4回の発行を予定する。
- 特集は年2回程度とする。1回は里山をテーマにしたものを取り上げたい。
- 支部の活動を広める内容を充実させたい。



◇事務局・財務担当（金児一夫）

2001年度決算報告（紙面の都合により省略します。）

2002年度予算案（一般会計予算は次ページに掲載しました。）

※、この予算には委託事業の受託費、繰越金は含まれていません。  
会費収入のみを対象とした予算です。そのため、結果的にマイナス予算（赤字）となっています。

平成14年度一般会計予算(案)

H14年4月1日～H15年3月31日

上段=予算、中段=注釈、下段=H13年度実績

野鳥の会 三重県支部

収入の部	総会費	理事会費	事務局費	支部報費	支部活動費	対外費	合計
支部会費							810,000
						405名×2000円	810,000
受取寄付金					0		20,000
							34,854
受取利息							2,500
							2,091
予算合計							831,000
支出の部							
筆耕編集・講師	50,000						50,000
					64,503		64,503
印刷費	5,000	6,000	18,000	175,000	10,000		214,000
	5,450	6,430	19,823	174,057	307,670		513,430
交際費					0		
					4,550		
会議費					150,000		150,000
					保護部木曾岬フォーラム		
					5,000		5,000
旅費・宿泊費		44,000	1,000		0	120,000	165,000
		44,000	1,000		1,020	57,520	
通信費	52,000	6,000	260,000	190,000	30,000		538,000
	53,100	6,480	259,981	191,046	20,205		530,812
消耗品費	2,000		53,000	2,000	50,000		107,000
	1,800		53,276	2,000	8,523		65,599
事務用品費			40,000		100,000		140,000
			36,410		木曾岬の写真パネル作成		36,410
新聞図書費							
諸会費							
						11,000	11,000
寄付金						5,000	
会場費	16,000	4,000					20,000
	15,500	3,800			4,000		
事務費							
雑費	1,000		4,000	2,000			7,000
	840		3,493	2,345	1,683	525	24,037
予算合計	126,000	60,000	376,000	369,000	340,000	120,000	1,391,000
							-560,000

支部活動費・・・研修会・企画部・地区活動費・研究活動費・保潔活動費

対外費・・・郵対連・中部ブロック・野生ネット等

## 支部活動のページ

野鳥講座⑩開講

# 密 猟から野鳥たちを守る

4月21日(日) 総会終了後15時～17時  
三重県生涯教育学習センター大研修室

現在、日本産の殆どの野鳥は愛玩目的で捕獲・飼育することが禁じられています。(注:メジロ・ホオジロについては一羽に限り許可を受けて飼育することが可能。)しかし、実際は飼育や売買を目的とした密猟が絶えないのが実情です。特にメジロやウグイスは、その声の良さから愛好家の間で高い需要があり、中国などから輸入された外国産の亜種につけた「輸入証明書」を悪用して国産の個体を売買する手法が横行しているといわれます。

今回の「野鳥講座」は、野鳥の密猟・違法飼育の根絶に向けて全国的に活動を展開している「全国野鳥密猟対策連絡会」(密対連)の事務局長・中村桂子氏、そして三重県環境部から「人と自然の環境共生チーム」の新谷成美氏をお迎えしてお話をうかがいました。

### ●全国野鳥密猟対策連絡会

事務局長・中村 桂子氏

まず出席者に回覧されたのが「カスミ網、トリモチ、野鳥の声のテープ」という「密猟3点セット」。実物を見るのは初めてという人も多く、皆興味津々。続いてOHPを利用して密猟の実態や密対連の活動について紹介があり、その後、ビデオ「メジロが泣いている」「闇で売られる野鳥」を視聴した。テレビの取材が実際に密猟現場に遭遇し、密猟者の生々しい実態が示されるなどの刺激的な内容。

密対連ではこれまで中国にまで出向き、対応官庁に野鳥の輸出禁止を働きかけるなど、熱心な活動を展開している。三重県内での密猟摘発のエピソードも紹介され、警察との連携プレーについて参考になるお話をいただいた。

最後に質疑応答。中村さんはおだやかながらも、頼もしい語り口調で出席者の疑問・質問に次々回答していただいた。

今後は鳥獣保護法の改正により、野鳥の違法飼育にかかる罰則が強化される予定とのことで、密猟者の側も警戒心が強くなり、うかつに摘発するのは危険とのこと。密猟の現場を目撃した場合には、自分だけで対応しようとせず、離れた場所から警察に通報するようにしたい。



### ●三重県環境部「人と自然の環境共生チーム」 新谷 成美氏ほか

三重県からは、鳥獣保護法の概要、県の狩猟に関する取り締まり状況などの説明。愛玩飼養鳥の違法捕獲取締りについては2月から5月、無許可飼養、販売業者対象の取締りについては5月から8月にかけて職員と鳥獣保護員で行うとのこと。

続く質疑では出席者から鳥獣保護計画についての質問などがあつた。

### おねがい 野鳥の違法飼育摘発にご協力ください

メジロ、ウグイスを初め、オオルリ、ヤマガラなどの野鳥の飼育は、その殆どが違法です。支部で情報をとりまとめ「三重県環境部自然の共生チーム」と連携して対応しますので、怪しい事例を見かけましたら事務局まで情報をお寄せください。

### 三重県支部組織図・連絡先電話番号

※連絡先は個人のお宅ですので、マナーを守ってご利用ください。

支部長: 杉浦邦彦 ( ) 事務局長: 西村泉 ( )  
財務: 金児一夫 ( )

副支部長: 市川雄二 ( )  
高橋松人 ( )

監事: 加藤光広 ( )  
西村四郎 ( )

保護部: 谷本勢津雄 ( )  
企画部: 橋本祐子 ( )  
研究部: 前澤昭彦 ( )  
編集部: 三村通雄 ( )

北勢地区代表: 市川雄二 ( )  
伊賀地区代表: 田中豊成 ( )  
津地区代表: 平井正志 ( )  
松阪地区代表: 谷本勢津雄 ( )  
南勢地区代表: 山田昭子 ( )

理事会つうしん

2002年度第1回理事会の主な内容

2002年4月21日（日）三重県生涯学習センターにて  
出席 14名

1. 協議事項

●事務局

- ①2002年度総会について打ち合わせ
- ②野鳥講座について打ち合わせ
- ③来年度中部ブロック会議について  
(財)日本野鳥の会中部ブロック会議を来年度三重県で開催のため打ち合わせ。
- ④平成14年度三重県環境功労者賞募集について
- ⑤事務局備品購入について  
コピー機を購入する方向で了解をとる。



2. 報告・連絡事項

●事務局

- ①第10回中部ブロック会議の開催について  
甲府市にて5月25～26日開催、副支部長他理事2～3名で出席の予定。
- ②MIE・みんなで創るフェア2002について  
6月1～2日、四日市ドームで開催、支部より「木曾岬干拓地の野鳥」の写真、パネル展示で参加予定。北勢地区で担当する。
- ③平成14年度支部事業補助金(県)の申請について  
昨年度は木曾岬フォーラムのため5万円受託(申請は20万円)。  
本年度も申請する方向。(5月末)
- ④探鳥会の企画書の提出と書式変更について  
6～9月分について提出のこと。企画書の書式を一部変更したので注意のこと。  
混乱している報告書の提出先を、今後事務局宛てに一本化する。
- ⑤講師依頼について  
四日市市青年会議所より高松海岸イベントへの協力依頼  
鳥羽簡易保険保養センターより講話の依頼
- ⑥自然観察指導員講習会について  
6月14日～16日に伊勢市(厚生年金休暇センター)で開催される。  
申し込み期間は4月15日から5月20日まで

以上

三重県支部へようこそ

新入会員さん2002年～4月までの名前とご住所

今号から、新しく入会された会員さんのお名前をご紹介します。  
探鳥会などにもどしどし参加してくださいね。

- |            |          |
|------------|----------|
| さん(鈴鹿市)    | さん(桑名市)  |
| さん(菰野町)    | さん(鈴鹿市)  |
| さん(津市)     | さん(津市)   |
| さん(松阪市)    | さん(明和町)  |
| さん(名張市)    | さん(四日市市) |
| さん(紀和町)    | さん(亀山市)  |
| さん(玉城町)    | さん(長島町)  |
| さん(大阪府松原市) | 以上15名    |

※5月現在の会員数は508人(家族会員含む)です。会の運営は皆さんの会費で支えられています。  
身近な方に入会を呼びかけましょう。

● 支部活動の記録（2月～5月）

2002年

- 2・3 シンポ・「自然の博物館をつくろう」に副支部長出席
- 2 支部報「しろちどり」第34号発行・発送作業
- 2 2001年度県委託調査事業の報告書作成・提出
- 2 来年度の活動計画立案作業
- 2・26 特定鳥獣保護管理計画（ニホンジカ）の樹立に係る公聴会に支部長出席
- 3・3 2001年度第4回理事会
- 3・9 大仏山スプリングフェスティバルへ参加（南勢地区）
- 3・11 三重県自然環境影響評価委員会を傍聴
- 3・12 2002年度総会案内等発送作業
- 3・14 三重県自然環境保全審議会鳥獣部会に支部長出席
- 3・21 シロチドリ保護活動（繁殖地の保護）
- 3・31 部長会議
- 4 2001年度決算作業・2002年度予算案の作成
- 4・11 事務局会議
- 4・21 2002年度総会・野鳥講座・2002年度第1回理事会
- 4・26 事務局会議
- 4・30 平成14年度三重県環境功労賞推薦書提出
- 5・2 伊勢市高倉山鳥獣保護区・特別鳥獣保護区期間更新について意見書の提出
- 5・7 三重県環境保全審議会に支部長出席
- 5・7 伊賀町壺山鳥獣保護区期間更新について意見書の提出
- 5・7 名張市滝之原鳥獣保護区期間更新について意見書の提出
- 5・8 探鳥会案内発送作業
- 5・14 大宮町藤木屋休猟区新規設定について意見書の提出

● これからの活動（5月～7月）

- 5・25 第10回中部ブロック会議 に出席
- 5 「バードウィーク全国一斉野鳥販売実態調査2002」に参加協力
- 6・1 「MIE・みんなで創る環境フェア2002」に参加
- 6 支部報「しろちどり」第35号発行
- 6 密猟パトロール（各地区）
- 7・28 2002年度第2回理事会

お買ひしませす

「ヒナを捨わないで！」キャンペーンが始まりました

今年も野鳥のヒナの巣立ちの時期をむかえ、ヒナの保護をめぐるトラブルが予想されます。迷子のように見えても、巣立ちしたばかりのヒナのそばには親鳥がいます。ヒナが地面に落ちていても、安易に保護しようとしなくて、そのまま立ち去るようにしましょう。人がそばにいと、親鳥がエサを与えることができません。

「釣り糸・釣り針捨てないで」ポスターの掲示にご協力ください

たくさんの野鳥たちが釣り糸にからまったり、釣り針を飲んだりして命を落としています。以前支部で制作したキャンペーンポスター（シロチドリが釣り針を飲んで死んでしまった図案）がまだ残っていますので、釣具店や、人が集まる場所に貼っていただける方は事務局までお申し出ください。

探鳥会リーダーの方へ、探鳥会開催後の報告書について

探鳥会をお世話いただいているリーダーの方には、開催後報告書の提出をお願いしていますが、どこに提出したらいいのか分からないという声がありました。今後、提出先を事務局に一本化しましたので、ご協力よろしくお願いたします。





探鳥会について考える

橋本 富三

昨年（2001年）の10月、日本自然保護協会（NACS-J）の自然観察指導員講習を受講する機会に恵まれた。この講習は自然観察会を通して自然保護の大切さを学習しようとするのがその趣旨であるが、自分なりにこの講習を通して得た事、特に探鳥会について考えてみた。

自分がリーダーをした数少ない探鳥会経験では、鳥をみつけて観察し、何種類の鳥が出たか数を数えて、「綺麗やったな、沢山あったな。あー楽しかった、またやろうな」で終わるのが常であった。参加した人を楽しんでもらえれば良いと思っていた。参加者に自然に親んでもらい、鳥のことをよく知って、もっと好きになって欲しい。それも大切。でも他に探鳥会を開催する意味があるんじゃないか。鳥を通してみえてくる自然の大切さ、一度失った自然を回復する事の難しさ、そして今ある自然を保護し、次世代にもっと豊かな自然を残す事、そのためにみんなが話し合う、行動する事が大切なのではないだろうか。

今、自分が子供の頃、夢中になって遊んだ日々の事を思い出す。阿漕の海に行けば透き通る水の中で群れ泳ぐ小魚、アサリ、マテガイそしてたまにハマグリが採れた潮干狩り、学校帰りに道草をした小川にはフナや、メダカ、ドジョウ、カラスガイ、ゲンゴロウ、タガメ、赤い腹をしたイモリ。夏休みのひんやりとした雑木林には、タマムシ、カミキリムシ、クワガタ、なかなか捕まえられなかったオニヤンマとギンヤンマ。夏の夜は街灯の裸電球にガヤカナブン、カブトムシが何匹も飛んできた。それは今思いだしてもスリリングでときめく生き物とのふれあいであった。皆、少し前まで自分のそばに当たり前だった生き物達だ。しかし今これらの生き物は、限られた場所でしか会えなくなっている。これらを考える時、今の子供達にどうしたらあのわくわくするような体験をしてもらえるだろうか。何十年か先、今日の探鳥会で見られた鳥たちに同じ場所で再び会うことが出来るだろうか。そのために今、何をすれば良いのだろうか。

30億年という長い時間の中で育まれてきた250万種を超える生物のうち、2050年には、その3分の2が絶滅すると予告する生物学者がいる。小さな環境変化にも大きなダメージを受け、危ういバランスの上で生き続ける生物を乗せた宇宙船地球号は、今沈みつつあるのではないだろうか。この宇宙船地球号を救う第一歩は、いつも自分の周囲にある身近な自然に気を配りながら、何か変だぞ、おかしいぞと思ったときに行動を起こす勇気である。そうした仲間を増やしていくことも探鳥会リーダーの大きな役割であろう。

野生サルと出合った探鳥会

水森和子

4月27日、少し肌寒さを感じさせられる県民の森探鳥会、今日の探鳥会は楽しみにしていた探鳥会の一つです。以前に初めて参加した時の感激が忘れられず、又ぜひとも参加したいと思っておりました。

リーダーさんの夏鳥の話、バードウォッチングのマナー等の話を聞き、2班に別れ道路を渡って森の中へ、一番最初に、ピーピーとヒヨドリが私達を迎え入れてくれます。「シメ」が木の上で、それを見つけた私達は内心「しめ！しめ！」と。その後、「ホオジロ」「エナガ」「コゲラ」「ビンズイ」「メジロ」「ツグミ」「カワラヒワ」等、目の前に現れたり、飛び去ったり、私達を楽しませてくれます。

そしてなんといっても今日のヒットは、一度見たら忘れられない鳥「キビタキ」です。リーダーさんが一はやく望遠鏡をセットして下さいます。レンズの中にはスズメ位の大きさで、背中部分は黒く胸から腹の部分は黄色の鳥、なんてすてきな鳥でしょう。代わる代わる望遠鏡をのぞきました。

途中で「おサル」と出会い、私達は「おサル」さんをウォッチング、おサルさん達は人間をウォッチング、共にしばらく仲よくお見合いをした後、おサルさんの「ウンチ」を見ながら楽しい半日を過ごし、そして楽しさの余韻を残しながら帰途につきました。

### 《私の一番鳥》

平成5年に私達家族はハヤブサの幼鳥を保護した事があります。

7月初旬、海山町の銚子橋付近でうずくまっている幼鳥を見つけました。目がぎょろぎょろとしていて、まるで海坊主のようなハヤブサの幼鳥でした。早速、家で鶏肉を与えてみるとすぐにパクつきました

獣医さんに診察してもらいますと、右足が骨折して赤茶色に変色しており(本来の色は黄色)、やせていることもわかりました。処置をしてもらい、飲み薬をいただいて家に連れて帰りました。この飲み薬は後に、餌にねじ込んで飲ませました。この時の体重は530gでした。

餌は鶏肉、レバー、砂肝が好きで毎日100g程食べていました。

目増しに元気になり、7月中旬ごろには、箱の中でうずくまっていたのが上体を起こせるまでに回復しました。また、羽ばたくようにもなり、段々と生活場所が下から上へと移り、テーブルの上などに止まれるようになりました。

餌も切り身から骨付き肉にすると、足で押さえて上手に食べられるようになりました。

獣医さんに連れて行くのも大変で、つかまえるのにも力がいり、「キィ、キィ」と鳴きまです。そのうち部屋の中で放し飼いになってしまい、生活場所が洋服ダンスの上になってしまいました。

そこで、家具を新聞紙で覆い、部屋中に新聞を敷き詰めました。私達が部屋へ入ると「ハアハア」と威嚇してきます。しかし息子が呼ぶと、手に舞い降りて羽ばたきをするというかわいい所もありました。尾羽が汚れると、ぬるま湯で洗ったりと大変で忙しい一ヶ月間でした。

7月末の天気の良い早朝、無事に育つことを願いながら放鳥しました。以上が私達の貴重なハヤブサ保護体験で、思い出の鳥です。

藤原京子



《私の一番鳥》(しろちどり 33号参照)では「好きな鳥」「思い出に残る鳥」「あこがれの鳥」・・・など、鳥に関する話題のコーナーを設けております。  
お気軽に投稿ください。

みむーの中国通信 (5)

三村 祥子

ニーメンハオ！皆さんこんにちは！みむーです。

先日から雨が多くなり上海もそろそろ梅雨の時期が到来しそうです。それが過ぎるとあの夏がやって来るわけですが、上海は長江の河口に位置しているため潮風が通って比較的蒸し暑くないそうです。研修期間中住んだ杭州より涼しいことを期待しています。

すこし前の話になりますが4月の6日から一週間山東省に旅行に行きました。上海から汽車で約9時間で、青島などがある省です。ですが今回はそこをあえて外して(?)孔子の故郷曲阜、泰山、徐州に行ってきました。そのうちの泰山(標高1532m)、中国は勿論世界的に名高い名山中、世界自然文化遺産に登録されていて、歴代の皇帝が封禪(即位したことを天地に祀る)の儀式を行った聖地です。孔子は「泰山に登ると天下はなんと小さいものか」、杜甫は「泰山の頂上から眺めると周囲の山は小さなものだ」と言う言葉をこの地で残しています。

中国人にとって特別な山で、一生に一度は登るといい、日本でいう金毘羅参りのようなものだそうです。しかも普通の山登りと違って石段7414段(!)下から眺めると1本の筋のように見えます。普通は一から登るのですが時間の都合で五合目から登りました。

登り始めてものの数分後、白と黒の、ハト大の鳥が飛んでいるじゃありませんか!!そうです、カササギです!自然の中で人を恐れていないのか3メートルほど前の石段を歩いているのです。しかもつがいで!初めて見たので本当に興奮しました。帰って調べてみると『カササギは佐賀平野を中心に北九州に生息し、国の天然記念物』と記されていました。中国で日本の天然記念物を見られたことに感動しました。

その後、標高が高くなるにつれ植物も無くなっていき頂上はごろごろした岩だけになってしまいましたがレストランや土産物屋はどこまで行ってもありました。しかし水だけは届いていないのかこのトイレに行っても水は出ませんでした。

途中、一人のカップラーメンを運んでいるおじさんと話す機会があり、肩に担いでいる荷物の量を訊ねたところ、なんと片方5kg、もう片方に5kg。(5kg分のカップラーメンを想像してください。かなりの量です)それを担いで7千段を登ります。一日2往復が限界だそうです。その重労働で1日15元(1元約16円)。毎日新鮮な食材を持ってくることの大変さを痛感します。途中で休憩した時に食べたりんごの美味しいこと!山水でキーンと冷やされ食べた瞬間甘さが広がって……。りんごがこんなに美味しいなんて知りませんでした。これを美味しく感じる事が出来るのもこういった努力のおかげなんですよ。あらためて中国人の底力を見た気がしました。

先日よく行く路上市場でアヒルとヒヨコを触りました!ヒヨコは日本でも売っているので珍しくありませんが、アヒルは初めてでした。生後10日ほどのヒナたちで一匹一元。ちゃんと水かきが付いていて、手の平に乗せても爪がないから痛くないのです。売り手のおじさんはどうしても2匹セットで売りたいらしく(一匹だと寂しがらから。というのが理由だそうです)しきりに2匹を薦めてきます。でも今は寮に住んでいるし、当たり前ですがずっとこのまま手の平サイズというわけではないので買いませんでした。

今、上海は空前のペットブーム。只今、路上ではウサギとハムスターが売られています。

以上、みむーの中国通信でした。



カササギ(広辞苑より)

## 探鳥会

### ● 神戸の里山探鳥会 (津市)

日時: 11月11日(日) 9:00~12:00

担当: 岡八智子・石原 宏

参加者: 20名 (会員18名 非会員2名)

観察種: ハクセキレイ、セグロセキレイ、ウグイス、モズ、メジロ、ホシヅロ、ジョウビタビ、シジュウカラ、イカル、ノスリ、キジ、カラビリ、カシラダカ、コゲラ、シロハラ、コシユケイ、カウ、アカゲラ、ツグミ、ビソズイ、ソメ、ヒトリ、ハシボソガラス、ベニマシコ、トビ、セキレイ、アオジ、スズメ

計 28種

#### コメント

雲一つない上天気で、予定通りでき、アカゲラとノスリも見られ良かった。

#### 環境変化や問題

竹が雑木林をのみ込む勢いです。又、奥の水田跡も雑草と雑木で自然にかえりつつあります。中勢パイパス工事も段々近づいて来て、ここはこの先どうなるのでしょうか。又、15日にキジ撃ちハンターに会い、こんな里山が狩猟区とはびっくりしました。

### ● 安濃ダム探鳥会 (芸濃町)

日時: 12月23日(日) 10:00~12:00

担当: 平井正志・斉藤加代子

参加者: 40名 (会員18名 非会員22名)

観察種: アトリ、オトリ、セグロセキレイ、メジロ、ホシヅロ、アオサギ、カカラス、ハシボソガラス、カラビリ、マガモ、カウ、ヒトリ、モズ、カセミ、セキレイ、ノスリ、ジョウビタビ、クマカ、ウグイス

計 19種

#### コメント

地元の芸濃町からも会員外を含む数名の参加があり、地元からも注目されるようになった。オシドリはやや少ない(2002年1月14日には72羽に増加している)。錫杖荘から湖岸をあるいた。アトリの小群がヤナギの木に降りて、観察できた。湖面にボートを浮かべてブラックバスを釣る人がいて、オシドリの越冬に影響がでる可能性がある。

鳥合わせ中にクマタカが上空に出て、一同満足。オシドリの越冬を保護するために、冬季、ボートの禁止、周辺も含めて、禁猟区にするなど、対策が必要である。

### ● 鈴の森公園探鳥会 (松阪市)

日時: 1月19日(上) 9:30~11:30

担当: 宮田たつ・鈴木茂子

参加者: 26名 (会員20名 非会員6名)

観察種: ムクドリ、ヒトリ、ハクセキレイ、ハシボソガラス、スズメ、カラビリ、トバト、マガモ、ハシ、コガモ、アオジ

### ● しろちどり35号 ●

カセミ、コイサギ、モズ、セキレイ、セグロセキレイ、キジバト、アオサギ、コサギ、ダイサギ、イソサギ、ジョウビタビ、ツグミ、メジロ、ウグイス、ホシヅロ、イカル、ビソズイ、トビ

計 29種

#### コメント

天気に恵まれ風も強くなく、多くの鳥が街中で見られたことには、みなさんが喜んで下さったと思います。

参加された方々のマナーもたいへん良く楽しい会になりました。

#### 環境変化や問題

餌をやる人がいるのでアオジが川をさかのぼって来るようになり人なれをしたアオジがかなり近づいて飛ぶようになっていた。その分、コガモが追われているかなとも感じられる。

### ● 外宮勾玉池探鳥会 (伊勢市)

日時: 1月27日(日) 9:30~11:00

担当: 林 淳子・吉居瑞穂

参加者: 25名 (会員21名 非会員4名)

観察種: ハシボソガラス、マガモ、コガモ、ヒトリ、カカモ、バン、カイツリ、アオサギ、ダイサギ、コガモ、カウ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、セキレイ、メジロ、ツグミ、ヒトリ、キジバト、シロハラ、コゲラ、アオジ、ヤマカ、ハシボソガラス、スズメ

計 24種

#### コメント

アオジも例年にくらべ数が少なかったが、勾玉池の良い所はカモ達が間近で観察出来るので参加者にアオジをじっくりと観察して貰えた。羽の色の構造、色のこと、アオジは何故浮くのか等を皆で楽しく観察出来た。

### ● 木曾岬干拓地探鳥会 (木曾岬町)

日時: 1月27日(日) 9:00~12:00

担当: 村田芳雄・近藤義孝

参加者: 16名

観察種: カカモ、コガモ、キンクロハシロ、ツグミ、アオジ、ジョウビタビ、チュウビ、ムクドリ、アオサギ、オオソコモ、ダイサギ、ホシヅロ、トバト、イソサギ、カササギ、ハクセキレイ、ハイロチュウビ、キジバト、カイツリ、チョウゲンボウ、オオカ、カラビリ、コチョウゲンボウ、タゲリ、カウ、メジロ、ヒトリ、キジ、タヒバリ、ノスリ、モズ、ケリ、コガモ、ハシボソガラス、ハシボソガラス、シジュウカラ、ヒバリ、スズメ、ミコ、セキレイ

計 40種

#### コメント

今日は風が強くてライトプレーンや模型飛行機が飛ばなくて、かわりに猛禽類がよく飛んでくれた。

## 環境変化や問題

鍋田干拓地内での工事が増加しつつある。

## ● 東紀州地区探鳥会 (海山町)

日時：2月3日(日) 10:00~14:00

担当：三村通雄

参加者：10名(会員)

観察種：ヒトリ、マガモ、キンクロハジロ、ホシハジロ、カラビリ、カウ、イツパメ、スガモ、シハラ、トビ、ウグイス、スズメ、ムクドリ、キジバト、ツグミ、ホシロ、ヘコマシコ、ジョウビタキ、モズ、カイツブリ、アオジ、コガモ、オオバン、ミサコ、イカルドリ、イトドリ、カンムリカイツブリ、アサギ、ダイサキ、ウミネ、オセグロカモメ、カモ、ノリ、カルガモ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、キジ、メジロ、トバト、キキレイ

計 40種

## コメント

生憎の小雨模様の天気ではあったが、例年どおりの種類が見ることができた。今年はおオバンが観察された。今年も来たオオワシは、今日は見ることができなくて残念だった。

## 環境変化や問題

船津川近くの前柱池の前には残土が多く積み重ねられていた。また、この近くを通る高速道路ができると船津川の雰囲気も変わってしまうだろう。

## ● 上野公園探鳥会 (上野市)

日時：2月10日(日) 10:00~12:20

担当：塗矢博一

参加者：7名(会員)

観察種：カラビリ、ウグイス、ヒトリ、ツグミ、コガラ、ハシボソガラス、シメ、ビンスイ、イカル、アオバト、トバト、キジバト、ムクドリ、スズメ、カウ、エカ、マガモ、メジロ

計 18種

## コメント

種類が少なかったが、数がたくさん見られた。

## 環境変化や問題

多少、数・種類とも多くなった。

## ● 揖斐川探鳥会 (多度町)

日時：2月17日(日) 9:10~11:30

担当：近藤義孝・村田芳雄

参加者：15名(会員15名)

観察種：カウ、アサギ、コガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、ミサコ、トビ、チュウビ、コトドリ、ケリ、タグリ、イツギ、タギ、ユリカモメ、キジバト、ヒバリ、キキレイ、ハセキレイ、セグロセキレイ、ヒトリ、モズ、ミササギ、ジョウビタキ、ツグミ、

ジョウカラ、メジロ、ホシロ、シベリアジョウリン、カラビリ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、トバト、オジョウリン

計 35種

## コメント

あいにくの曇り空ではあったが、シベリアジョウリン、オジョウリン、チュウビ、ミサコなどが観察された。数日前まで狩猟に使われたカモのデコイが川に残されていた。

## 環境変化や問題

浚渫工事で一部埋め立てが行われていた。

## ● 磯部町穴川探鳥会 (磯部町)

参加者：20名(会員17名 非会員3名)

日時：2月24日(日) 9:00~12:00

担当：今村 禎

観察種：ヨシガモ、ヒトリガモ、マガモ、オカガモ、オオバン、ホシハジロ、ハシボソカモ、キンクロハジロ、ミサコ、チュウビ、アサギ、カイツブリ、トビ、スズメ、アオジ、オオカ、タビバリ、ホシロ、ツグミ、タギ、ムクドリ、カラビリ、ハシボソガラス、オジョウリン、メジロ、ジョウビタキ、ウグイス、ヒクイナ、セグロセキレイ、キジバト、ヒトリ、カウ

計 32種

## コメント

2月の穴川としては、あまり寒くもなく絶好の探鳥会日和でした。観察された鳥では、観察もメインであるカモ類が少なく残念でしたが、部分白化(肩の部分)したチュウビが観察できたりし、楽しめました。

## ● 木曾岬干拓地探鳥会 (木曾岬町)

日時：2月24日(日) 9:00~12:00

担当：村田芳雄・近藤義孝

参加者：23名

観察種：キンクロハジロ、ホシハジロ、オオヨシガモ、コガモ、イツギ、アオジ、キジバト、ハセキレイ、タグリ、タギ、ヒバリ、ツグミ、トビ、チョウゲンボウ、ノリ、ハブサ、ハイロチュウビ、ムクドリ、カラビリ、ミサコ、キジ、ダイサキ、ケリ、ジョウビタキ、モズ、カセミ、タビバリ、ヒトリ、カイツブリ、ハシボソガラス、カウ、カルガモ、アサギ、トバト、オジョウリン、ハシブトガラス、スズメ、ホシロ、メジロ、コチョウゲンボウ、カシラガカ、ジョウカラ

計 42種

## 環境変化や問題

柵が設けられ、堤防上への車の出入りが出来なくなったため、ライトプレーンが飛べなくなり大型鳥類の飛翔の妨げがなくなった。

## ● 海蔵川探鳥会 (四日市市)

日時：2月27日(水) 10:00~12:00

担当：尾畑玲子・橋原 葵

## 探鳥会

参加者：13名（会員10名 非会員3名）

観察種：バン、カイツブリ、カササギ、ハシロ、セグロシギ、メジロ、シジュウカラ、シメ、モズ、クイナ、カラヒリ、ツグミ、アオジ、ケリ、ホシヅメ、キジバト、アオサギ、カルカモ、キジ、シハラ、ムクドリ、ヒヨドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、スズメ、キセキレイ、ヒバリ、シヨウビ、ウグイス、トビ、アマガモ、カ SP（オオカ?）、イソギ

計 33種

コメント

代官橋にいるアマガモは付近でかって行われていたアマガモ農法の落とし子と思われる。

野生化しているので種数に加えた。

環境変化や問題

三重TVが探鳥会の趣旨をうけて取材してくれた。この催しを多くの人に知ってもらうには良い機会だったと思う。

### ● 斎宮池探鳥会（明和町）

日時：3月2日（土）9:00～11:30

担当：西村 泉・山田昭子

参加者：12名

観察種：カイツブリ、コゲラ、カラヒリ、カウ、メジロ、エカ、ヒヨドリ、ヤマカ、ウグイス、トビ、アオサギ、シジュウカラ、シハラ、カササギ、ハシボソガラス、ハシブトガラス

計 17種

コメント

風は冷たかったが、日差しは暖かく鳥見日和となった。

コゲラが巣を作るため、木に穴を開ける様子をじっくり見ることができた。

環境変化や問題

三重TVからの取材を受け、3/18に放映された。

### ● 石垣池探鳥会（鈴鹿市）

日時：3月3日（日）10:00～12:00

担当：市川雄二

参加者：23名

観察種：カウ、ハシボソガラス、カラヒリ、メジロ、ツグミ、キジバト、ウグイス、ムクドリ、アオジ、ヒヨドリ、ハシロ、オバン、カイツブリ、ユリカモメ、マガモ、オカガモ、ホシヅメ、スズガモ、ヒトリカモメ、ヨシガモ、カルカモ、ハシボソカモ、オシガモ、コガモ、アオサギ、オオカ

計 26種

コメント

晴天に恵まれた、石垣池の探鳥会で23名の参加がありました。今年のガンカモ調査でカモの仲間は約2,000羽と例年になく少なかったのですが、種類は多く、12種を数えました。

今回の定例探鳥会では、カモの仲間は7種で100羽しかいなくてがっかりしました。

会員から、ここで1月下旬オオタカの姿を確認したとの情報を聞いて、オオタカのせいかなと多少複雑な思いにふけたひと時でもありました。また、池の真中にある中の島ではカワウの繁殖が真っ最中です。夕方になると1,300羽のカワウが集結します。350の営巣を確認しています。

### ● 木曾岬干拓地探鳥会（木曾岬町）

日時：3月24日（日）9:00～12:00

担当：村田芳雄・近藤義孝

参加者：20名

観察種：コガモ、ホシヅメ、キジバト、カウ、トビ、カウ、キジ、アオジ、ノリ、オオカモ、スズメ、アオサギ、オシロ、バン、カルカモ、カイツブリ、クサギ、カラヒリ、ツグミ、キジバト、オオカ、ヒバリ、ヒヨドリ、カササギ、ハイロ、チュウビ、チュウビ、ミサゴ、ケリ、ハイカ、ハシボソガラス、ヤブサ、イソギ、セグロシギ、シヨウビ、ウグイス、ダ、イギ、コトドリ、ハシロ、モズ、ムクドリ、ツグミ、ホシヅメ、ハシブトガラス、トビ、シジュウカラ、シハラ、ツバメ

計 48種

環境変化や問題

チョウゲンボウが出ていれば干拓地の猛禽類は出そろったことになる。人間の営みと自然の恵みの良く調和した場所であろうか。

コメント

木曾岬干拓地の自然保護をどのような形にするべきか、みんなで考えよう。

### ● 赤日の森探鳥会（名張市）

日時：4月7日（日）10:00～15:10

担当：田中豊成・小林達也

参加者：15名（会員8名 非会員7名）

観察種：ツバメ、ヒヨドリ、イカル、シジュウカラ、スズメ、ツグミ、ムクドリ、アオサギ、セグロシギ、ハシロ、カウ、ヒバリ、ケリ、ヒバリ、ハシボソガラス、ウグイス、ホシヅメ、カラヒリ、アオジ、キセキレイ、ヤマカ、オオカ、ヤブサ、エカ、オオカ、ヒガラ、イツハメ、キジバト、ヒノシ、メジロ、ハシブトガラス、コゲラ、カス、シハ

計 34種

コメント

夏鳥を観察するには時期が少し早かったが、意外に多くの野鳥を観察できた。

### ● 藤原岳探鳥会（藤原町）

日時：4月7日（日）9:00～13:00

担当：加藤光広・村田芳雄

参加者：7名（会員7名 非会員0名）

観察種：キジ、スズメ、ツバメ、ヒヨドリ、ハシブトガラス、ホシヅメ、モズ、カラヒリ、ウグイス、ムクドリ、ケリ、セグロシギ

レイ、キセレイ、ツグミ、キンバト、ヒガラ、ヤマガラ、ミサザイ、メジロ、シメ、シハラ、シジュウカラ

計 22種

コメント

天気もう少しよければというのが共通の想いのようだ。

藤原岳周辺に特有の植物を観察できたことはよかった。

環境変化や問題

登山等の観光化に伴い、有料駐車場が増えている。

● 篠田山探鳥会（松阪市）

日時：4月8日（月）9：30～12：10

担当：宮田たつ・小津みゆき

参加者：13名（会員11名 非会員2名）

観察種：シハラ、ツグミ、ヒンズイ、メジロ、カラヒワ、ケリ、エナガ、トビ、アオジ、コゲラ、ウグイス、材木、アトリ、イカル、シメ、ヤマガラ、ツバメ、ヒトドリ、ハシボソガラス、スズメ、アマガ

計 21種

コメント

今年は桜の開花が早く、散り始めた桜の木の枝でツメが一羽二羽と採食するのをゆっくり見ることが出来た。

● 高松海岸探鳥会（川越町）

日時：4月14日（日）10：00～11：45

担当：楢原 葵・高 和義

参加者：46名（会員14名 非会員32名）

観察種：ハマシギ、シロドリ、トリネ、ダイイギ、コサギ、ユカモメ、ウミネ、ヒバリ、ハシボソガラス、ヒトリガモ、カカモ、カウ、ツバメ、ヒトドリ、セッカ、ツグミ、ムクドリ、ホシロ、ハクセレイ、スズメ

計 21種

コメント

望遠鏡の数が多く、1台に3、4人で見られゆっくり観察できたと思う。又、シギドリの出現種が少なく集中できた。干潟の大切さを面白く解説できるようにしたい。

環境変化や問題

潮干狩りの人間が多すぎるように思う。貝を採る量と大きさの制限も必要ではないか。

● 宮川河口探鳥会（伊勢市）

日時：4月14日（日）9：15～12：00

担当：世古口有司・西村 泉

参加者：21名（会員15名 非会員5名）

観察種：セグロセレイ、オオシキリ、キジ、セッカ、バン、死

イサギ、ヒトドリ、アオサギ、ツバメ、ヒバリ、スズメ、ハクセレイ、コシユケイ、コサギ、メグイチドリ、トビ、ツグミ、カラヒワ、カウ、カイツブリ、キンバト、ハシボソガモ、コガモ、マガモ、カカモ、ムクドリ、ウグイス、アオジ、ケリ、ヒトリガモ、オオシカモ、オナガガモ、キンクロハシロ、モズ、タンギ、ハシボソガラス、ハシブトガラス

計 43種

コメント

たくさんの野鳥を観察できて干潟の豊かさを感じてもらえたのではないかと思います。皮肉にも諫早湾を失った4/14が「干潟を守る日」となりましたが、干潟の大切さをもっと多くの人に伝えなければいけないと感じました。

● 県民の森探鳥会（菟野町）

日時：4月27日（土）9：30～12：10

担当：矢田栄史・高 和義

参加者：49名

観察種：ヒトドリ、ツグミ、イカル、ウグイス、キビタシ、シメ、コゲラ、カラヒワ、材木、メジロ、ヒンズイ、ホシロ、ツバメ、エナガ、スズメ、キセレイ、カス、ハシブトガラス、アマガ

計 19種

コメント

4月下旬でキビタシの姿、さえずりを確認できたのは過去7年間で初めて。たくさんの参加者のおかげで、途中、地面に落ちていた小鳥の巣を拾い、まどめの時に、みなさんに見てもらった。

● 木曾岬干拓地探鳥会（木曾岬町）

日時：4月28日（日）9：00～12：00

担当：村田芳雄・近藤義孝

参加者：24名

観察種：コガモ、コチドリ、カカモ、キンバト、キジ、イソギ、チュウビ、ホシロ、ハクセレイ、カウ、アオサギ、チユウシヤクシギ、ケリ、ヒバリ、セッカ、ツグミ、トバト、ハシボソガラス、ダイイギ、モズ、ツバメ、バン、スズメ、トビ、コサギ、死バリ、ハシブトガラス、ウグイス、ヒトドリ、ムクドリ、オオシキリ、シジュウカラ、カラヒワ、メジロ

計 34種

コメント

小学生4名の参加もあり、そのうちの一人がプロミナを通してキジを見た時「あ、桃太郎さんのキジだ」と叫んだ。

環境変化や問題

ガードレールを越えてライトプレーンを堤防上に運び込んで、また干拓地上空を飛び始めた。大型鳥類の飛翔に影響を与えている。

春の鳥（小綬鶏）



空翔ける鷹に歓声春うらら

初燕と一目でわかる宙返り

小綬鶏の裏山に来て誘ひける

初燕見てよりしゃんと背を申し

囀りに耳遠きこと忘れをり

鴨帰る魅力に想ふ未知の北

鴨引きてしじまの水面山の影

坂口  
草人

◇ お知らせとお願い ◇

「しろちどり」の原稿の宛先は.....

(イラスト・表紙絵も募集しています)

〒

三村 通雄 宛でお願いします。

TEL (FAX)

e-mail

**編集後記**

2002年度の(財)日本野鳥の会三重県支部総会も無事に終了した。今年度の第一号のしろちどりです。

五月始め、東北を移動していた。あたり一面新緑の薄緑が眼に柔らかく、北の地方独特の懐かしい光景が続く。

米沢市郊外の道の駅で休んでいた時のこと、電線に止まったノスリが居たので暫く見ていた。そのうち、さっと舞い降りて、野鼠様の小動物を捕らえて行った。ハンティングの様子を見て、感動したことだった。

M・M

**しろちどり 第35** 2002年5発行

題 字 濱田 稔

表紙絵 田中 豊成

編 集 三村 通雄

〒

発行者 (財)日本野鳥の会 三重県支部

〒516-0026 伊勢市宇治浦田2丁目9-4

杉浦 邦彦方

印 刷 館 印刷

〒510-1321 三重郡菟野町田口

1903-3

●本誌掲載記事の無断転載を禁じます。●